



山を登る オオバコ

白山での分布状況

オオバコは踏みつけに強く、他の植物が生えないような踏み固められた場所でも生育できます。漢名で「車前草」とも呼ばれ、車(馬車など)が多く通る道の端に多く生えることからこの名がついたとされます。白山でも、登山道や建物の周りなど人が踏みつける場所にたくさん生えています。逆に人が入り込まず、在来植物がたくさん生えている場所にはほとんど生えていません。



白山にはびこるオオバコ



↑ 一面に群生するオオバコ



↑ 登山道の脇に生えるオオバコ

オオバコの種子



↑ オオバコの種子
濡れた種子の周りにネバネバした粘液が見える
オオバコの種子は濡れるとネバネバしてくっつきやすくなります。登山道沿いのオオバコからできた種子はそこを歩く登山客の靴の裏にくっついて少しずつ種子が山を登っていき、そこから新たに芽が出て生育分布を広げていきます。今、白山ではこの登山靴に付いた種子を落とすために、種子除去マットやブラシを設置しています。

オオバコの分布

オオバコは白山でも最も広い範囲に侵入した外来植物です。白山国立公園に含まれる岐阜県・富山県・石川県・福井県の4県いずれでも確認されています。登山口から連続的に生えており、少しずつ山の上に登っています。在来植物のハクサンオオバコが生えている場所を取り囲むように広がってきていることがわかります。室堂など山の上でポツンと離れて生えている場所は、山小屋などでヘリコプターで荷物と一緒に種子が運ばれたと推測されています。

オオバコの除去

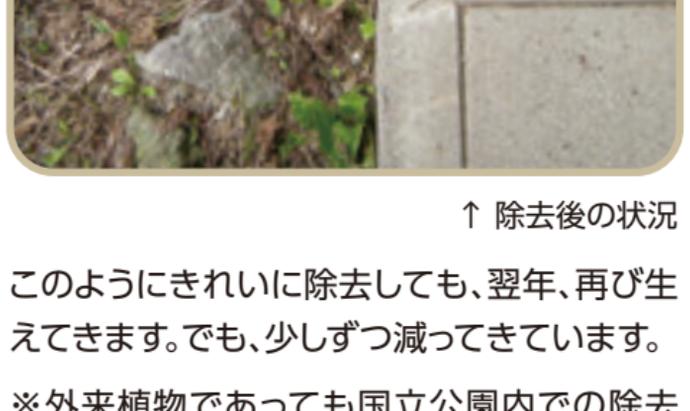
ボランティアの手により、オオバコを一つ一つ抜き取る除去作業が白山の各地で行われています。除去は地中1cmほどにある生長点(翌年の芽が出る場所)より上部を「根切り」という道具を用いて除去しています。



↑ オオバコの除去に用いる除草用の道具「根切り」



↑ 除去前のオオバコ



↑ 除去後の状況

このようにきれいに除去しても、翌年、再び生えてきます。でも、少しずつ減ってきています。

※外来植物であっても国立公園内での除去は勝手に行わないでください。



オオバコマン
特技:種をまき散らす
踏まれても強く生きる
趣味:山登り

